



No. 52  
2017 Winter

山松舎  
臨南寺

特集

# 道元禪師ものがたり

25



後継者づくりには腐心するうちに  
とうとう病に侵されてしまいました

来世の果てまで山を下りない  
多くの弟子を輩出

鎌倉から永平寺へ帰られた道元禪師は、「今後は来世の果てまで当山の境内を離れることはない」と宣言されました。「二度と永平寺を離れず、永平寺に骨を埋める」と誓われたのです。その言葉どおり、道元禪師はその後永平寺を離れることなく、弟子たちに法を説き、ともに弁道修行に努められました。「お釈迦様から伝わる正伝の仏法を、自分に代わって次の世に伝えることのできる弟子を育てなければ」という強い思いが道元禪師を駆り立てていました。

道元禪師の思いに込めるように多くの弟子が育ちましたが、一番弟子といえば懐契(えいけい)でしょうか。懐契は三十六歳で入門、以来二十年近く道元禪師に従ってきました。道元禪師の言葉を記した『正法眼蔵随聞記』をはじめ、百数十巻にわたる道元禪師の著述を書き写し、道元禪師の教えを後世に伝える重要な役割を果たしました。続くのは義介(ぎけい)です。義介は早くから寺院運営の才能を認められていました。道元禪師亡き後、宋に渡って四年間各地の名刹で修行を積み、帰国後は永平

寺の伽藍や儀式を整備して教団の維持・発展に尽くしました。

もう一人忘れてならないのが寂円(じやくえん)でしょう。道元禪師の教えを慕って中国から帰化した寂円は、後に福井県大野の宝慶寺を開いて道元禪師の法を厳しく伝えていきます。

## 病魔に襲われる

建長四年(一一五二)の夏安居のころ、道元禪師は体の変調を感じました。弟子たちへの熱心な指導、昼夜にわたる『正法眼蔵』などの著述、それにも増して厳しい修行。それらが道元禪師の健康を奪っていったのです。

七月になるとさらに病状は悪化していききました。体力も次第に衰弱していき、病床に伏せることが多くなりまりました。懐契や義介がつきっきりで看病しましたが、一向に回復の兆しが見えませんでした。自分の命があまり長くないと感じた

道元禪師は、懐契をかたわらに呼びました。「法を伝える作法や次第、菩薩戒を授ける時の作法を伝授したのは、お前だけです。後のことはすべてお前に任しましたぞ」

と語りかけ、自分で縫い上げた袈裟を与えました。この時をもって永平寺の住職の座を懐契に譲ったのです。

## お釈迦様への強い憧れ

建長五年(一一五三)一月には、『正法眼蔵』最後の説法となった「八大人覺」を説かれました。「八大人覺」とは仏弟子が守るべき徳目で、小欲(欲望を少なく)、知足(足るを知る)、楽寂(静寂を願う)、精進(一生懸命に努力する)、不妄念(迷いを断つ)、禪定(坐禅に集中する)、智慧(悟りを開く)、不戲論(無駄な議論をしない)の八つです。

実はこれは、お釈迦様が入滅の直前に説かれたと伝わるものです。これに最後の説法に選ばれた道元禪師の心の中には、自分の死をお釈迦様の死と重ねる思いがあったのではないのでしょうか。道元禪師のお釈迦様への憧れの強さを感じずにはおられません。

# 新しい年に福を招く

## 弁財天祈禱会にお参りください



新しい年が明けると、二月十五日午前十時から本堂で弁財天祈禱会を修行いたします。

弁財天様は七福神の一人で、商売繁盛、合格祈願、芸能上達に霊験あらたかといわれます。かつて臨南寺の境内にあった弁天堂を、昨年圓通閣の入口の左側に再興いたしました。臨南寺の弁財天様は、かつての長居池の北之島にあった弁天堂を移したもので、古くから地域の守護神として信仰されてきたものです。

弁財天祈禱会では、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読いたします。この経典は、唐時代の高僧・玄奘法師がインドから中国へ持ち帰ったもので、古来より大きな霊力を持つと言われております。

新しい年が安らかで穏やかでありますよう、また世界から戦争や疫病などが少なくなりますますよう



お一人、おひとりの無病息災・家内安全をご祈念いたします

皆様とともに心を込めてお祈りいたしますよう。皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願って、お礼、お守り、守護矢をお授けいたします。法要の前には護守会の会計報告、総代さんのご挨拶があり、法要の後は温かい甘酒も用意しております。皆様の厄を払い福を招く弁財天祈禱会に、ご家族、お友達を誘い合わせてお参りください。

## カブスカウトの子どもたちが坐禅にチャレンジ、シジ

七月三十日、ボーイスカウトの大阪一四九団カブ隊の子どもたち四人が、本堂で坐禅とぞうきんがけに挑戦しました。子どもたちの感想文の一部をご紹介します。

「坐禅をしていたら、前が何も見えなくなつて一人でもとても静かな所にいるような感じになつた。初めて味わう感覚でした。魂を清められたのかなと思います」(荒井陽生くん)

「そうじはたたみのお線に合わせてぞうきんがけをしました。ぞぜんは家でも朝五分ぐらいやると集中力が出来るのかなと思ひました。やつてみたいです」(久保心澄さん)

「ぞぜんではなにを考へつかなくなつた。セミの音が聞こえなくなつたので、耳がおかしくなつたのかなと思ひましたが、しゅうちゅうしていただけでした」(吉村陸くん)



お坊さんの説明で坐禅に挑戦しました

「ぞぜんをしあつたあと、足がシビレてビリビリしました。そのあとそうじをがんばつてやりました。かんそう文を書くときも足はシビレていました」(よしむらかいくん)

坐禅はとつつきにくい印象がありますが、坐つたあとは清々しく気持ちの良いものです。団体での坐禅も受け付けています。寺務所にご相談ください。

# 秋のマトリ合同法要

## 落語と紙切り芸を楽しみました



—琴師匠の表情豊かな熟演に引き込まれていく

お話です。

額に汗をかきながらの熟演に、場内は大爆笑の連続。サービスピ精神にあふれた二琴師匠は紙切り芸も披露してくださいました。「ネズミを切ります」と言いながら出てきたのはミニマウス。宝船やドラえもんもあつという間に切り上げて、本格的なできばえに場内は拍手に包まれました。

境内のイチヨウの葉も黄金色に染まった十一月十二日(日)午後一時から、がっしょう園マトリの合同法要が営まれました。今回は落語です。江戸落語の柳家小三治二門の柳家二

琴師匠をお迎えしました。大阪府茨木市出身ながら小三治師匠に憧れてという珍しい経歴の持ち主です。

演し物は「てんしき」という古典落語。医者から聞いた「てんしき」という言葉が「おなら」のことと知らなかった和尚さんが、その意味をたずねに行かせた小僧の珍念に「盃」のことだと嘘を教えられ大失敗するという

「法要に参加するのは八年になるけど、落語は初めてね」「父が生きていたら喜んだやろね」そんな声があちこちで聞こえました。落語を聞いた後は

マトリに移り、読経の中でご焼香していただきました。

お墓の継承が難しくなる昨今、永代供養のマトリへ申込みされる方が増えています。



お客様の似顔絵の紙切りにも拍手喝采

### 臨南寺行持予定(一〜二月)

#### 弁財天祈祷会(本堂)

一月十五日 午前十時〜十一時

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を修行します。温かい甘酒の振る舞いもございます。ご家族、お友達、誘い合わせてお参りください。



#### 釈尊涅槃会(本堂)

二月十五日

お釈迦様が入滅された二月十五日、涅槃に入られるお釈迦様のお姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行い、ご入滅をしのびます。

### お気軽にご参加ください

#### 早朝坐禅会

毎月第一土曜日(二月、八月は無し)午前六時半〜本堂にて

#### 写経会

毎月二十日(八月は無し)午前十時〜午後三時  
写経料・千円

\*いずれも急ぎよ中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

よろしくお願い申し上げます



谷川和代

今年の四月から臨南寺で働かせていただくことになりました谷川和代と申します。

子供の頃は朝夕とお仏壇に手を合わせ、お墓参りにもよく行っておりましたが、実家を離れるとその機会も減りつつありました。でも、臨南寺でお世話になってからは手を合わせる機会も増え、改めて「感謝の気持ちを忘れることなく過ごしたい」と思えるようになりました。

お寺での業務は初めてのことばかりで戸惑うことも多くありますが、お寺様や寺務所の皆様方にご指導いただきながら、ご来寺の皆様にてできるだけご迷惑をおかけすることがないように努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



## お車でお越しの皆さんへ

最徐行

本年、当寺院の境内地で数件の人身事故が発生しました。境内では最徐行で通行してください。

今後改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを全面的に禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いませんのでご了承ください。



この道はお年寄りや自転車も通るので最徐行をお願いします

### 年末年始の墓参のゴミはコンテナに



年末年始の墓参で出たゴミは、コンテナに入れてください。墓参でのごみ以外は投棄しないでください。ご家庭で出たゴミはご遠慮ください。墓苑を美しく清潔に保っていただきますようご協力をお願いします。

### 編集後記

「人生はな、冥土までの暇つぶしや。だから、上等の暇つぶしをせにゃあかんのだ」

これは、作家で僧侶でもあった今東光さんの言葉です。果たして自分は、限りある命を「上等の暇つぶし」に使っているだろうか？ 考えさせられました。(M)

### 年末年始の臨南寺

- \* 十二月三十一日～一月三日は、寺務所は閉めさせていただきます。
- \* 三が日の花の販売はございません。
- \* 一月の早朝坐禅会はお休みさせていただきます。
- \* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

「ほ～っと」52号

平成29年12月

編集・発行： 椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com